

日本人の

志

京都、こころここに

vol.09

今、日本人が一番忘れてきているのは「畏敬」の心ではないでしょうか。言い換えれば、それは「宗教心」ともいえます。

心の豊かさ
物の豊かさを
混同してしまつた

もう60年以上も前になりますが、戦後、衣食住の充足は大きなことでした。まず、豊かになりたい。しかし、そこで日本人は心の豊かさと、物の豊かさを混同してしまつたように思います。「衣食足りて礼節を知る」といいますが、仏教では逆なのです。礼節があつてこそ、何よりも心が先なのです。



り抜け落ちたのです。社会全般、家庭やとくに教育で、このことをテーマにしたことが現代の心の荒廃を招いたのです。人間にとって一番大事な「命の尊さを教える」。これが宗教の本質だと思つていきます。

宗教心

清水寺貫主 森 清範さん



もり・せいはん 1940年、京都市生まれ。15歳で得度。花園大卒業後、清水寺真福寺住職などを歴任。88年、清水寺貫主・北法相宗管長に就任。「人のこころ 観音の心」など著書多数。

「もったい(勿体)ない」という言葉がありますが、これは「体をなくすことなかれ」という意味です。日本人は「体」の中に形だけでなく、心の動きまで含めていのです。ですから心「命を粗末にすること、軽視する」ということは、とてもない間違いです。

科学を疑わず
盲信してしまつた
原発事故

こと3月に東日本大震災が発生し、多くの方々が被災し犠牲となられました。復興には被災地の人だけでなく、日本が一体となって取り組まなければなりません。ただ、この震災で感ずるのは、地震と津波は天災だが、原発事故は人災といわざるをえず、極めて命を軽視しているということ。

日本全体が地震発生源の真上にあるのですから、原発はすべて危険な場所にあります。その危険なものを「安心、安心」と言ってきました。

戦艦大和の乗組員だつた吉田満という方が九死に一生を得て、後に自著に死に際の上官の言葉を書き残しています。「不沈艦といわれた大和の沈没と日本の敗戦は、日本の訓練が足りなかつたのではなく、科学に対する情熱と理解が足りなかつたのだ」と。科学を盲信し、理解することを思考停止させていたのではないのでしょうか。

科学は「もともと疑い」の世界です。常に疑つところに科学の進歩があるはず。ところが、疑わずに「信じた」のです。信じるというのは宗教の世界です。信じるべきではないものを信じた結果な

トインビー博士が
京で説いた
「現代の危機」

歴史家のアーノルド・トインビー博士が、かつて京都での「現代における危機」という講演の中で「今日ほど危機、危険な時代はない。間違つてボタンを押せば核戦争が勃発し、すべてが滅びる。それを救う方法は宗教であり、道徳である」と言っています。トインビー博士が日本で、それも京都で「京」と言つたということは、大きな意味があります。

仏教は命の哲学であるとし上げました。命には生物学的な、いわゆる生きていく見えない命と、それを支える見えない命とがあるのです。見えない命、それが宗教です。相手を慮(おもひ)か



戦後、日本人は物の豊かさ引き換えに大切なものを忘れてきたのではないだろうか。日本人が忘れつつある価値観が今も生き続ける千年の都・京都から温故知新の知恵を発信する。(毎週日曜日に掲載します)

日本の暦

二百十日
(9月1日～)

二十四節気を補完する「雑節」の一つとして、江戸時代初めから暦に表れるようになりまし。立春から210日目、稲の開花期に当たり台風襲来の特異日です。農家に限らず警戒日とされます。昔から「八朔(旧暦8月1日)」「二百十日」「二百二十日」の3日は三大厄日とされ、統計的にも荒れる日が多いようです。

リレーメッセージ



ジャーナリスト
木下 明美さん

不易流行

「昭和生まれの幕末男」で「京魂洋才」の夫と暮らしているの、書いたたりしゃべったりすることを仕事にしてはいても、「京都もの」でモノを言つことは避けてきました。それも40年暮らすうちに、「京都は奥が深い」「京都は狭い」と言われることも、それなりに納得するようになりました。

若くは、かつて暮らしたアメリカの合理性が輝いて見えました。例えば、アメリカみたいな機能的な家をつくらうと意識込んでいたこともありました。ところが「溜した、それまでよ」と踏みとどまらせてくれた友がいたおかげで、大正期に建った先代からの家は残りました。家と遺された調度品と着物を受け継ぎ、山水が身近にある京都で暮らせることをしみじみありがたく思ふ今日この頃です。

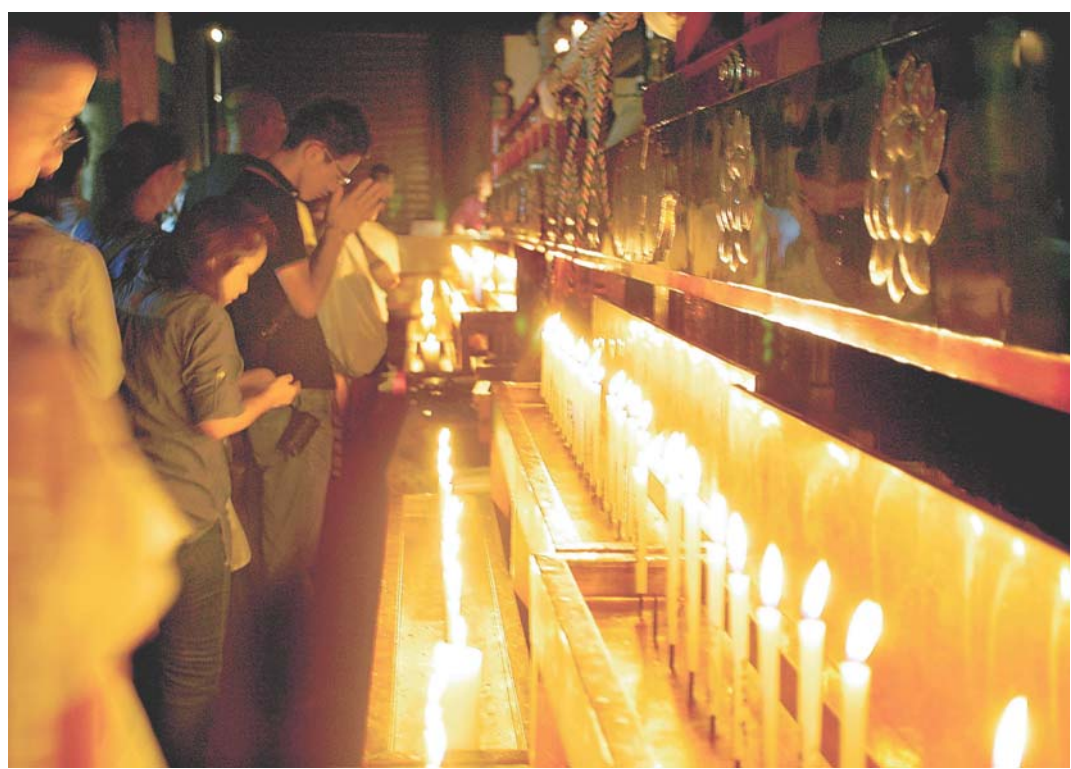
それでも時々、不易と流行の間で揺れ動くこともあります。ウチにはクーラーという文明の利器はなく、打ち水と扇風機と団扇で冷を取って暮らすうちにやがて秋風が立ちます。

鴨川を渡って街中に出かけるときには、不易の着物と流行のカジュアルを着着ける「京都で、着物暮らし」(拙ブログ名)を楽しんでいます。

(次回9月4日のメッセージは、京都中央信用金庫専務理事の平林幸子さんです)

(日本人の志ものは、京都新聞ホームページ
http://kyoto-np.jp/kyo-np/info/
nwc/va/藏(たなま)

相手を慮り、畏敬の念を持つ 仏教は命の尊さを説く「哲学」



畏敬の心を養ってくれるのが宗教。仏前に手を合わせる人々は何を祈るのか。(京都市東山区・清水寺)



♪ 雨の日も 風の日も 西へ 東へ そうさ ボくらは 行くよ 明日も ラ ラララ ララララララ ララララララ ララララララ 行くよ さあ 明日も ララララララ

いくよ。明日も。

